

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400068		
法人名	社会福祉法人 翠明会		
事業所名	グループホーム 敬天		
所在地	大分県日田市天瀬町女子畑234番地-1		
自己評価作成日	平成24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年4月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日を穏やかに、笑顔で過ごしていただけるよう努力している。
 ・利用者と職員が家族のような関係であり、そのうえでその人を尊敬し、尊厳を守って行くようにしている。
 ・自然に恵まれた環境で、季節を感じながらの散歩や、野菜作り、椎茸の栽培、漬物作りなど得意なことを楽しんでいただいている。
 ・地域の行事や祭り、併設の特養との交流にも積極的に参加し、顔なじみの関係を多くしている。
 ・楽器やうたの得意な利用者を中心に音楽隊を結成し、特養の誕生会や行事の時に出張演奏を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員は一日の流れを、利用者主体でその人らしい暮らしが送れるよう支援に努めている。
 ・「入居者懇談会」を設け、一人ひとりの思いや意向が積極的に出せるよう工夫をしている。
 ・毎月1回、さまざまな想定で避難訓練を行っており、職員はいざという時の避難方法を身につけている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関ホールや台所に理念を掲示し、毎朝の朝礼時に復唱し、実践に取り組んでいる。	「家族、地域と共にその人らしい暮らしを作る」という地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、全職員で、理念を共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域小学校3校の訪問や運動会への参加、地域の祭りの見物や老人会の友愛訪問の受け入れ等を行っている。夏祭りは家族以外にも、地域の子供たちや自治会の人たちの協力のもと、行っている。	小学生との交流、地域の行事への参加を行っており、法人主催の夏祭りの際には、地域の協力を得ている。婦人会手作りの弁当や地元の野菜を購入するなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や誕生会等の行事で、地域のボランティアに踊りや歌の参加をお願いしている。その際、利用者といふれあう機会を作っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の報告、利用者の状況等を報告し、意見をもらっている。今後の予定や、地域の行事、避難訓練、市介護保険係や自治会長からの提案や家族からの要望等について話し合っている。	運営推進会議では、事業所の取り組みを報告する以外に、参加者より、避難訓練での地域の協力や災害時の避難場所について意見をもらい、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への市担当者の参加時、意見をもらっている。わからないことは相談し助言をもらっている。	市担当者には、毎回運営推進会議に参加してもらい、事業所の取り組みを伝えている。また、市窓口に出向いたり、電話で相談しながら連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修等で職員はほぼ理解している。施錠は夜間のみ。車椅子も移動以外最小にしている。ベッド柵も起きあがり等に必要最小限にしている。利用者の状況を、職員で話し合い、取り組んでいる。	年1回、定期的に研修を行っている。利用者の状況に応じて、ケアの工夫などを話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待について研修を受けている。職員間で話し合い、虐待の正しい理解に努めている。		

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、計画作成担当者が研修を受けている。必要があれば、家族と話し合いながら、活用できるようにしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書に沿って説明し、理解していただいた上で契約を行っている。変更がある場合は、その都度、説明を行い理解・納得をしていただくようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中での利用者の要望等や、家族会や運営推進会議、家族の面会時にいただいた要望・意見を、ミーティング時に話し合い、とりいれるよう努めている。	利用者の意見などを、懇談会や日々のケアの中で聞き取っている。家族からの意見は年2回の家族会や面会時、電話などで聞くようにしている。出された意見は運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やミーティングで、報告、意見を出し合い、改善に向けて話し合うようにしている。	月1回の職員会議や日々のミーティングなど、意見や提案を聞く機会をもっている。記録の書き方や、接遇、日々の業務についてなど、意見を出し合いながら運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭的な雰囲気施設の施設という建物上の問題もあり、職員の休憩室や、ロッカーの設置が難しく、改善に至っていないが、出勤時間や勤務時間等の改善は行った。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修の参加、法人関連病院での研修、併設特養施設職員との合同研修、その他機会を設けて介護力の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、日田玖珠連絡協議会の会議を持ち回りで行い、情報交換や研修内容について話し合っている。交流研修で得た知識やアイデア、改善すべきところなどを取り入れている。		

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と家族の希望や要望をよく聞き、不安が少しでも和らぐような声かけを行っている。毎日の様子の变化を職員間で話し合い共有している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望を理解し、利用者の思いを面会時や、電話で連絡している。家族の心配や利用者の不安の解消に全職員で努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に聞き取りをし、利用者にとって適切と思われるサービスを家族、担当ケアマネや関係職員と話し合っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理をし、同じ食事をし、一緒にお昼寝をしたり、知らないことを教えてもらったりしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出、冠婚葬祭への出席、病院受診など、できるだけお願いしている。利用者が自分で家族と電話で近況報告することも多い。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域老人会や婦人会の友愛訪問や、友人の面会がある。住んでいた家や近所への訪問、お墓参りなどの支援を行っている。	以前住んでいた地域の婦人会の訪問や、友人の面会がある。利用者の馴染みの場所に出かけたり、お墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩やリハビリに行く時に、車椅子を押ししたり、手を繋いだりしている。体調の悪い利用者を気遣い、居室に見舞いに行く利用者もいた。食事の準備の声かけも利用者間でしている。		

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に入所した利用者には、ほぼ毎日声をかけている。また、利用者も同じである。他施設に移った利用者には、友愛訪問として利用者と職員が会いに行っている。必要な情報提供も行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子の観察や訴えをよく聴き、職員間で話し合い、情報を共有し改善に努めている。無理強いをしない支援を心がけている。	入居者懇談会や日々のケアの中で、思いや意向の把握に努めている。言葉で表現できない人には、寄り添いながら本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴などをケース検討会やミーティングで情報の共有を行っている。また、毎日の会話の中で情報の収集を行い、今後のサービスにつなげるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情の観察、バイタルチェック、食事の摂取量等で状況を把握し、リハビリなどは利用者の意思を確認し、行っている。職員で情報を共有し、趣味や外出の支援を行うようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が毎日の記録からカンファレンスシートを記入し、ケース検討会で話し合い、プランを立てている。医師の助言や利用者、家族の要望を機会あるごとに聴き、プランを作成している。	3か月ごとにカンファレンスシートを作成し、本人や家族の意見、希望を聞きながら、全職員で検討し、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録とケア日誌から、変化のあったことや注意が必要な事などを、朝のミーティングでその都度話し合い、情報を共有し、実践して行くよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の一部委託により、見守りや外出、一緒に過ごす時間を増やした。趣味の楽器演奏に取り組んでいる。		

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域小学校3校の訪問や運動会への参加、地域の祭りの見物、障がい福祉事業所の出前喫茶を利用し、一緒に歌を歌ったり、大正琴の演奏、踊りなど得意なことを披露し楽しんでいる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望により、入居前のかかりつけ医の受診を基本としている。医師による薬の見直しや、注意事項等の意見をもらい、日々の援助に取り入れている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。家族や医師とは、本人の状態や受診結果などの情報を共有し、連携を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師に毎日のバイタルや、その日の様子を報告し、異常時は医師の助言を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の生活状況や医療情報を共有している。主治医とはすぐに連絡が出来る体制づくりに努めていきたい。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、また機会あるごとに家族と、緊急時や重度化した場合の対応についての意向を確認し、職員に周知している。	『看取り介護(ケア)についての希望確認書』を作成し、事業所でできることを、入居時に説明しながら方針を共有している。状況の変化に応じて、繰り返し方針を話し合っている。看取りの経験もある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制の確認や応急手当の研修を行い、ミーティングで話し合い、緊急時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、併設の特養と避難訓練を行い、協力体制を整えている。消防署の火災時の講習や、非常呼集訓練、地元消防団との合同訓練も行っている。また、グループホーム独自の訓練も行っている。	毎月1回、昼夜の火災など様々な想定での避難訓練を、利用者と共にっており、職員は利用者が無事避難できる方法を身につけている。消防団と共同訓練を行い、地域の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導や排泄の確認は、言葉かけに気をつけている。居室に入るときもノックや声かけを行い入室するようにしている。なれなれしくない言葉かけと親しみを感じる会話を心がけている。	施設内研修を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないケアの実践に努めている。職員同士がお互いに注意し合えるような関係づくりを心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の様子や会話から思いを聴くようにしている。どうするか迷っているときは、できるだけ待ち、本意を理解するよう努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで過ごしていただいている。食事はその人の時間やペースにあわせて、食べていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の購入は家族にお願いしているが、必要時は連絡をし、利用者と一緒に買い物に出かけるよう努めている。髪カットは美容師に利用者の希望を伝えるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、おやつ作りを一緒に行っている。漬物づくりが得意な利用者や饅頭づくりが上手だったり、指導してくれる利用者もいる。掃除や食事の後片付けは出来る方がしている。	食事の準備や後片付け、特技を活かして漬物やおやつ作りを、利用者と職員と一緒にしている。利用者と職員が同じ食卓を囲み、和やかな雰囲気ですべてを楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食、夕食の主のおかずと副菜を管理栄養士の管理の下、バランスを考え食べている。食事と水分摂取量を記録し、変化のある時は関係職員や看護師と話し合い、対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけと、介助を行っている。月に1回、歯科衛生士による口腔ケアと衛生指導を実施している。異常時は家族に連絡し、歯科受診をお願いしている。		

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で本人のパターンに添った排泄誘導を行っている。様子を観察し誘導時の声かけや、誘導の仕方を職員間で話し合い、その人に合った支援を心がけている。	できるだけおむつを使用せず、布パンツで過ごしてもらえるよう、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導など、自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック票で排便の様子を確認し、リハビリ体操や散歩をするよう促している。また、ヨーグルトや水分を多く摂っていただくようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日出来るようにしている。希望により毎日入る方もいれば風呂嫌いな方もいる。意思を確認した上で支援をしている。介助の仕方も職員で話し合って決めている。	利用者の希望に添って、毎日入浴できるようにしている。入浴を嫌がる人には、無理強いせず、声掛けやタイミングを図りながら、週2回以上は入浴してもらっている。温泉水を使用したり、ゆず湯にしてみるなど、入浴を楽しめる工夫も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や布団の調整、照明に気を配り、心地よい睡眠を取れるよう心がけている。冬は湯たんぽや敷毛布を使用し、寝る前から部屋を暖めておくなど、気を配っている。就寝時間は利用者それぞれで違っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容は、薬局からの薬の説明書の効能と注意書きに目を通し、すぐ分かるようにファイルをしている。変更があった時は、その都度報告、周知するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽器、うた、料理、買い物、散歩等そのひとの趣味や好みを活かし役割作りを行っている。食べたい物や化粧品の購入も希望により支援して。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、季節の花や風景を楽しんでいただいている。食材の買い出しには、希望者と一緒に出かける様になっている。家族には故郷の訪問や、自宅での食事、家族との外食、お墓参りなどをお願いし支援している。	天気の良い日の散歩や日光浴を日課にしている。本人の希望に添って、買い物や外食、家族との外出などができるよう支援している。	

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在4名の利用者が現金を持っている。パンやお菓子の販売がある時、また外出時に欲しいものがあれば、自分でお財布から出して使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望がある時、施設の電話を使用している。また、家族に報告がある時、利用者と一緒に電話を替わって話をして頂く事もある。年賀状作りも支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に移動が出来るように、動線に物を置かないようにしている。花や写真で季節を感じていただき、思い出話が出来るようにしている。窓を大きくし、外の景色を見やすくしている。	周囲に自然が多い環境で、景色を楽しめるよう椅子やソファを配置し、思い思いの場所できつるることができる。見えやすいように大きく引き伸ばした写真や季節の花を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや食堂の椅子に座ってテレビを見たり、仲の良い利用者の居室に遊びに行く様子も見られる。こたつで昼寝をしたり、それぞれ好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた家具、仏壇や鏡台、電気スタンドを使用している利用者もいる。部屋でくつろげるよう、畳や椅子も置いている。	畳コーナーを作ったり、ソファやテーブル、仏壇など、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしており、その人らしさの見える居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、洗面台の高さ等使いやすい設計になっている。浴室・トイレも車椅子で対応出来るようになってきている。台所はカウンターで仕事がしやすいようにしている。トイレの位置も分かりやすいよう工夫している。		